

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 8 日現在

機関番号：12401
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2009～2011
 課題番号：21530977
 研究課題名（和文）スペインの中学校における「宗教」教科および「シティズンシップ教育」教科の研究
 研究課題名（英文）A study on the subjects of "Religion" and the subjects of "Citizenship Education" in Spanish secondary educational system
 研究代表者
 村越 純子（MURAKOSHI JUNKO）
 埼玉大学・教育学部・非常勤講師
 研究者番号：80456003

研究成果の概要（和文）：スペインの中学校における価値教育関連科目として、とくに「宗教」教科と「シティズンシップ教育」教科を本研究の対象とした。両教科の成立過程および関係を明らかにすること、そして両教科の教育実態を把握することを目的とした。前者を明らかにするために、現地の研究者と共同セミナーを開催した。後者に関しては学校訪問による授業観察や担当教員へインタビューをした。その結果、次に示す内容の研究成果を得た。スペイン憲法およびローマ教皇庁とスペイン政府との合意を確認した「教育に関する国際協定」（1979）を巡って解釈に多様性があり、それに伴って両教科の捕え方にも多様性がうまれたことを明らかにすることができた。またスペインは自治州国家であるため、そのことによりさらに両教科の役割や位置づけに多様性がみられる。むしろそのような多元的共存および対立構造そのものがスペインの価値教育の実態であることを指摘することができた。

研究成果の概要（英文）：As a subject related to the value education in Spanish secondary educational system, I have investigated the subject of "Religion" and the subject of "Citizenship Education". I aimed at clarifying the process of establishing both subjects and the mutual relationship between them, and grasping the actual condition of them. In order to understand the historical process and the mutual relationship of them, I held the academic seminars which were supported by the Spanish specialists on the area of investigation. In order to know the current status on these subjects, I observed the classes and interviewed the teachers on these subjects by the visiting activity to some schools. I summarize the research findings, as following. I point out that the diverse interpretation on the Constitution of Spain and "International Treaties on Education" with Vatican State (1979) has brought diversity to interpreting the role and the position of the subject of "Religion" and the subject of "Citizenship Education". As Spain is a state realized by several Autonomous Communities, it promotes diversification of the role and the position of both subjects. I point out that the pluralism and the very conflicts in the interests would represent the characteristics on the reality of the value education in Spain.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：教科教育学

科研費の分科・細目：教科外教育（総合的学習、道徳、特別活動）

キーワード：シティズンシップ教育、宗教教育、道徳教育、スペイン、日西比較、中学校

1. 研究開始当初の背景

本研究を計画する以前からスペインの価値教育研究を進めてきた(村越純子「スペインの道徳教育」、渡邊弘編著『学校道徳教育入門』東洋館出版社、2007年4月、pp.114-135)。英文にした Junko Murakoshi, “Religion” as a Subject of Moral Education in Spain: A study of the Junior High School curriculum based on LOCE-, 『埼玉大学紀要教育学部』第 57 巻第 2 号、2008 年、pp.73-90、に基づき、2008 年 9 月にスペイン科学研究高等会議 CSIC 研究所およびサラマンカ大学・日西センターにおいて本研究の準備報告をした。研究分担者の森川輝紀(埼玉大学名誉教授・福山市立大学教授)との両研究所訪問で現地調査の協力について合意が得られていた。

わが国においては、教育基本法が改正され、日本における宗教教育およびシティズンシップ教育の在り方がまさに研究課題となっている。宗教教科を義務教育に設置してきたスペインに注目することで、先行研究では指摘されてこなかった新たな知見が得られることが期待された。

2. 研究の目的

本研究は、スペインの中学校における道徳教育関連科目、いわゆる価値教育に関する「宗教」教科及び「シティズンシップ教育」教科の成立過程を明らかにし、現実の学校教育における当該教科の実態を把握することを目的とする。本研究によって、これからのわが国の学校教育において「宗教に関する一般的な教養」及び「シティズンシップ教育」をどのように捕えていけばいいのかについての重要な手がかりが得られるものである。

研究課題の第一は「宗教」教科の成立過程を歴史的に分析することである。研究課題の第二は「宗教」教科及び「シティズンシップ教育」教科の現状分析を行うことである。具体的には、(1)「宗教」教科と「シティズンシップ教育」教科との関係の説明、(2)「政府の助成金をうける私立学校」と両教科との関係の把握、(3)実際の中学校現場における「宗教」教科および「シティズンシップ教育」教科の実態把握である。

3. 研究の方法

スペインの研究者とのセミナーやインターネット上の頻繁な交流を通じて、当該テーマに関するスペイン国内の最新情報を入手した。とくに現地の研究拠点としてスペイン科学研究高等会議 CSIC 研究所(Centro de Ciencias Humanas y Sociales, Consejo Superior de Investigaciones Científicas)を選び、訪問研究員の立場を得た。そのことをとおして、多くの現地研究者との接点をもてた。同研究所副所長 Diego Ramiro Fariñas 博士の理解と協力も得ることができた。

「宗教」教科および「シティズンシップ教育」教科の実態を把握するために、公立学校の事例と

してエストレマドゥーラ自治州立アゴラ中等教育学校(Instituto de Educación Secundaria Ágora)を3回訪問し、担当教員へのインタビューおよび授業観察を行った。また「政府の助成金をうける私立学校」の事例としてマドリッド自治州コンサーダダ系ルーデス学校(Colegio Lourdes)を3回訪問し、シティズンシップ教育科目と移民の子どもたちを対象としたリンクングクラスの担当教員へのインタビューおよび授業観察を行った。またシティズンシップ教育の境界領域といえる健康教育(性教育を含む)については、スペイン健康教育学会(Asociación De Educación Para la Salud, 通称 ADEPS)との交流(2回のセミナーおよび、2回にわたる同学会会長 María Sáinz Martín 教授による特別講演の聴講)を経てその理解を深めた。

4. 研究成果

(1)2009 年度

山口和孝教授(当時の埼玉大学教育学部長)の支援により、2009年7月17日に、埼玉大学教育学部において María Miranda Velasco 准教授(エストレマドゥーラ大学教育学部、Research Group innovation in health and Education, University of Extremadura, Government of Extremadura, GRU09143 研究代表者)による講演会を開催した。それによりスペインのシティズンシップ教育制度の動向について学ぶとともに、学生との国際交流の機会をもてた。また María Miranda Velasco 准教授とともに埼玉大学教育学部附属小学校を訪問し、日本のシティズンシップ教育の一環として、同校の久保田美徳養護教諭、東田雅美栄養教諭、加賀谷徳之社会科および「総合的な学習の時間」担当教諭の授業観察とインタビューが実現した。

○現地調査(2010年2月7日～3月6日)

スペインにおいては、スペイン科学研究高等会議 CSIC 研究所の Margarita del Olmo 教授のプロジェクト(INTER Group and IP of the Research Project FFI2009-08762)に参加し、日本の教育基本法の内容や教育制度を報告することができた。これは共同研究の基盤づくりという点で大きな成果であった。とくに、日本の教育目的として掲げられている知・徳・体のバランス(調和)をすべて学校教育のなかで実現しようとする試みが日本独自のものであること、そして日本型シティズンシップ教育の意義を確認するとともに、スペインの価値教育の構造を解釈することの難しさを再認識した。

スペイン科学研究高等会議主催のセミナーとして、教育制度比較の討論会が実現した。まず、Caridad Hernández Sánchez 教授(マドリッド・コンプルテンセ大学・教育学部)から新しい教育基本法(通称 LOE 法: Ley Orgánica de Educación)に基づくスペインの教育制度、とくにマドリッド自治州によるシティズンシップ教育の方針および

その特長に関する報告と資料が提示され、それらを受けて日本とスペインの比較検討がなされた。次いで、Matilde Fernández Montes 教授(スペイン科学研究高等会議)から、同教授編著“*La integración escolar a debate*”(PEARSON EDUCACIÓN, 2009)の出版意図、インテグレーションの概要と今後の課題が報告された。

また Diego Ramiro Fariñas 研究所副所長の紹介で、Josep Bernabeu Mestre 教授(バレンシア・アリカンテ大学)と面談し、スペイン医療看護史研究の概要説明および基礎資料の提示および説明を受けた。また、Amparo González Ferrer 博士(スペイン科学研究高等会議研究員)との面談により、マドリードの学校基本データ、とくに「政府の助成金をうける私立学校」の説明を受けた。

さらに、María Miranda Velasco 准教授の仲介、エストレマドゥーラ自治州立アゴラ中等教育学校の Ramón Gómez Pesado 校長と教科主任 Francisco Javier Rosado Castela 教諭の協力を得て、「シティズンシップ教育」教科担当教諭に対するインタビューが実現した。

(2) 2010 年度

「教育基本法」(通称 LOE 法、2006 年公布)や「シティズンシップ教育」教科について、前年度収集した資料をもとに、村越純子、「スペインの義務教育制度におけるシティズンシップ教育教科の位置づけ—LOE 法に基づく中学校の学習指導要領の検討を中心に—」『埼玉大学紀要教育学部』第 60 巻第 1 号、2011 年、pp.33-48、としてまとめた。

○現地調査(2011 年 2 月 16 日～3 月 15 日)

マドリード自治州のルーデス学校を研究分担者の田代美江子(埼玉大学教育学部教授)とともに訪問し、前年度同様、リンクングクラスにおいて Rosario Mesón Gordo 教諭とコラボレーション授業を行った。同校における移民の子どもたちとの交流を通して、スペインの大都市においては多文化社会に対応した教育制度の多様性が根本的に求められており、その意味では公立学校とは違い、民間企業参加型の新しいスタイルのコンサータダ系私立学校(政府の助成金をうける私立学校)の意義を理解した。同校の「シティズンシップ教育」教科の授業観察と担当教員である Yolanda de la Torre 教諭へのインタビューも、同校の Laura de Carlos 英語教諭の協力を得て実現し、「シティズンシップ教育」教科について LOE 法とマドリード自治州の方針とに違いがある場合、コンサータダ系私立学校ゆえに LOE 法に依拠した内容を教授できることを確認した。

そして、スペイン科学研究高等会議の Margarita del Olmo 教授からの依頼により、研究分担者の田代美江子教授が日本の性教育の現状と課題についての講演を行った。そして田代教授とともに、María Ángeles Durán Heras 教授(スペイン科学研究高等会議、ユネスコの平等

政策スペイン代表)と面会し、ヨーロッパ連合とスペイン国内における女性の地位向上にむけた政策的動向について聞き取り、基礎資料を得た。

María Miranda Velasco 准教授の支援で、エストレマドゥーラ大学公認の国際セミナー、“Educación para la Ciudadanía, Moral y Religiosa en la Educación Obligatoria. Análisis desde las Perspectivas de España y Japón”を主催した。そこでは、Antonio Bolívar 教授(グラナダ大学、主著“*Educación para la Ciudadanía—Algo más que una asignatura—*”, GRAÓ, 2007)と Manuel Lázaro Pulido 教授(ポルトガル・ポート大学)との討論会が実現した。エストレマドゥーラ大学教育学部でシティズンシップ教育や宗教教育に携わっている Florentino Blázquez Entonado 教授、María Rosa Oria 教授、Enrique Ferrari 教授、Florentino Escribano 講師、María Otero 講師から、シティズンシップ教育と宗教教育の現状や課題についての報告がなされた。当セミナーで村越は、“The moral education and citizenship in compulsory education system in Japan”と題し、日本の教育基本法の理念を紹介し、教科外活動を含めた教育課程の特性を報告した。

また、エストレマドゥーラ自治州立アゴラ中等教育学校を再度訪問し、María Miranda Velasco 准教授と Francisco Javier Rosado Castela 教科主任、Jose Cáceres Morillo 英語教諭立ち会いのもと、宗教教科を担当する Jesús María Losada Martínez 教諭へのインタビューが実現し、宗教教科の方針および今年度の活動内容、主な教材等の聞き取りができた。

(3) 2011 年度

「宗教」教科について、前年度に収集したエストレマドゥーラ自治州立アゴラ中等教育学校の宗教教科のシラバスの概要を日本道德教育学会第 78 回大会(2011 年 11 月 20 日、武蔵野大学)において報告した。

○現地調査(2012 年 2 月 15 日～3 月 1 日)

Mariano Fernández Enguita 教授(マドリード・コンプルテンセ大学教育学社会学部長、前・サラマンカ大学・日西センター所長)司会のもと、David Reyero García 教授(マドリード・コンプルテンセ大学)との討論会を主眼とするセミナーが実現し、日本の教育制度をふまえたうえで、スペインの価値教育の特徴について議論できた。

ルーデス学校を再度訪問し、Fernando Mazo 校長、Laura de Carlos 英語教諭の協力を得て、「シティズンシップ教育」教科を担当する Raquel García 教諭の授業観察およびインタビューを行った。同校の「シティズンシップ教育」教科においては、生徒の問題意識を大切に、インターネットを用いることにより、生徒自身による調査や報告に主眼を置いていることを確認した。

再度アゴラ中等教育学校を訪問し、「宗教」教科を担当する Jesús María Losada Martínez 教諭

の授業観察および教授内容についてのインタビューが実現した。この際には、小橋さおり氏(マドリード・コンプルテンセ大学大学院、スペイン語学・文学研究科博士課程)が同時通訳を務めた。(このインタビューの内容については『埼玉大学紀要教育学部』第 61 巻第 2 号、掲載。)

(4)まとめ

これらの研究活動を通じてわかってきたことは以下のとおりである。自治州国家スペインにおいては、政府の方針によって教育制度は抜本的に変更されるが、各自治州政府の方針が実際には優先されることになる。したがってヨーロッパ連合の方針がスペイン政府によって統括的に実現されるわけではない。とくに「シティズンシップ教育」教科における性教育の扱い方は各自治州の政権の方針によって異なっている。

「シティズンシップ教育」教科と「宗教」教科との間で一定の合意形成があるわけではなく、シティズンシップ教育推進派は、多文化社会においては学校から宗教教育を排斥する方針が強く唱えられる。これに対し、宗教教育とくにカトリックを重んじる立場からは、ライセンス宣言が普遍的なものとして取り扱われること自体の問題性が指摘され、ヨーロッパ各国の学校では宗教科目が設置されてきた歴史や現状が指摘される。つまり、当初こちらが想定していたような、「シティズンシップ教育」教科と「宗教」教科とのバランス(調和)というものがあるわけではなく、むしろ価値教育についての対立構造があることが明確になった。またシティズンシップ教育の在り方についても、ヨーロッパ連合の方針に足並みをそろえることに意義を認め推進する立場もあれば、ヨーロッパ連合による強要ととらえる立場もある。後者については、スペイン憲法の解釈をめぐって、価値教育に関わる問題を国家が統括的に扱うこと自体に問題が発生することが指摘される。

本研究と関連する成果としてつぎのものを挙げることができる。2012 年 2 月 23 日にはスペイン健康教育学会より依頼をうけて、学会主催のセミナー“1ª Reunión Científica sobre avances en la Medicina Preventiva y Salud Pública: Investigación y Formación en la Promoción de la Salud”(予防医学と公衆衛生の進歩についての科学会議、第 1 回:健康促進の研究と樹立)において記念講演を行った。2009 年 7 月に María Miranda Velasco 准教授とともに行った埼玉大学教育学部附属小学校における養護教諭と栄養教諭の活動や授業観察を手掛かりとして、竹鼻ゆかり教授(東京学芸大学)から日本の健康教育についての研究助言も得て、日本の養護教諭の役割と機能について報告できた。その際の討論会により、スペインでは健康教育を推進するうえで、日本の養護教諭や栄養教諭のような学校で活躍する健康教育の専門家養成が早急の課題であり、大学での養成課程を含めた研究成果の日本からの発信の必要性を感じた。

現在、スペインでは政権交代にともなって教育制度が抜本的に変更される過程にあり、価値教育の在り方についても変更の方針が示された。このため、引き続き教育政策の動向を追う必要がある。

なお、研究成果報告書の出版にむけて以下の 6 論文をこれまで本研究に協力してくれた研究者より受け取っている。1. Antonio Bolivar, “Educación para la Ciudadanía en el Currículum de la Educación Obligatoria”(義務教育課程におけるシティズンシップ教育)、2. Manuel Lázaro Pulido, “Análisis de las diferencias interculturales en Educación moral y Religiosa e Implicaciones educativas”(道徳と宗教教育における異文化的相違と教育的密接関係の分析)、3. Manuel Lázaro Pulido, “Discusión entre el Prof. Dr. Antonio Bolivar Botía y el Investigador Dr. Manuel Lázaro Pulido”(アントニオ・ボリバル教授との討論の小括と反論)、4. Manuel Lázaro Pulido, “La educación religiosa en el periodo democrático (1975-2011)”(民主主義時代 1975 年から 2011 年における宗教教育)、5. María Miranda Velasco, “Marco europeo de la Educación para la Ciudadanía y los Derechos Humanos y desarrollo en el contexto escolar español”(スペインの学校におけるシティズンシップ教育と人権と開発についてのヨーロッパの枠組み)、6. Escolar Martín Carolina; Sáinz Martín María, “The Health Education Association in Spain. Promoting Healthy Life Styles”(スペイン健康教育学会—健康的なライフスタイルの促進にむけて)。

また、2012 年 2 月 27 日にマドリード・コンプルテンセ大学で行ったセミナーにおける Mariano Fernández Enguita 教授および David Reyero García 教授との討論の日西対訳も編集中心である。翻訳や編集作業が遅れているので、早急に研究成果報告書を出版する必要がある。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 2 件)

- ① 村越純子、「スペインにおける公立中学校の宗教科目に関する考察—宗教科目担当教員への聞き取り調査を中心として—」、『埼玉大学紀要教育学部』第 61 巻第 2 号、2012 年、査読無。
- ② 村越純子、「スペインの義務教育制度におけるシティズンシップ教育教科の位置づけ—LOE 法に基づく中学校の学習指導要領の検討を中心に—」『埼玉大学紀要教育学部』第 60 巻第 1 号、2011 年、pp.33-48、査読無。

[学会発表](計 10 件、うち招待講演 9 件)

- ① 村越純子、“Amendment to the Fundamental Law of Education and the challenges at Compulsory Education in Japan -Focused on

Citizenship Education as Japanese citizens-”、(マドリード・コンプルテンセ大学教育学部社会学専攻主催セミナー)、2012年2月27日、マドリード・コンプルテンセ大学。

②村越純子、“The function and activities of *Yogo* teacher in Japan -With the report of Maria J. Miranda Velasco’s researching project of Health Education in Japan (2009, Director of the research Group innovation in health and Education, University of Extremadura, Government of Extremadura)-”、(スペイン健康教育学会主催セミナー)、2012年2月23日、マドリード・コンプルテンセ大学付属サンカルロス総合病院。

③村越純子、「スペインの中学校における宗教教育—エストレマドゥーラ自治州立アゴラ校の事例を中心として—」、日本道德教育学会第78回大会、個人報告、2011年11月20日、武蔵野大学。

④田代美江子、“Current Sexuality education in Japan and Its Problems”, INTER Group and IP of the Research Project FFI2009-08762; Estrategias de integración y prevención de racismo en las escuelas II, Centro de Ciencias Humanas y Sociales, (スペイン科学研究高等会議主催セミナー)、2011年3月8日、スペイン科学研究高等会議 CSIC 研究所。

⑤村越純子、“The moral education and citizenship in compulsory education system in Japan”, Seminario Internacional: Educación para la Ciudadanía, Moral y Religiosa en la Educación Obligatoria. Análisis desde las Perspectivas de España y Japón (エストレマドゥーラ大学公認国際セミナー)、2011年2月24日、エストレマドゥーラ大学。

⑥村越純子、“The Subjects related to Citizenship Education in Japan”, The Research Group Scholar Failure and Communicative Competences-FECOMUN (Ref No.940816) of the Complutense University of Madrid, (研究プロジェクト研究代表者 D’Angelo Menendez 教授主催セミナー)、2010年3月5日、マドリード・コンプルテンセ大学。

⑦村越純子、“Health Education at Compulsory Education System in Japan -The role of *Yogo* Teacher and Nutrition Teacher”、(スペイン健康教育学会主催セミナー)、2010年3月4日、マドリード・コンプルテンセ大学付属サンカルロス総合病院。

⑧村越純子、“Health Education at Compulsory Education System in Japan -The role of *Yogo* Teacher and Nutrition Teacher”, La Investigación y la Práctica de la Prevención, Promoción y Educación para la Salud en el Contexto Educativo. Competencias y Formación Universitaria en El Espacio Europeo de Educación Superior, Grupo de Innovación en

Educación y Salud (GRU09143)(エストレマドゥーラ大学公認国際セミナー)、2010年2月26日、エストレマドゥーラ大学。

⑨村越純子、“How to teach the contents of morality with the Spanish international material”, INTER Group and IP of the Research Project FFI2009-08762; Estrategias de integración y prevención de racismo en las escuelas II, Centro de Ciencias Humanas y Sociales (スペイン科学研究高等会議主催セミナー)、2010年2月22日、スペイン科学研究高等会議 CSIC 研究所。

⑩村越純子、“The Subjects related to Citizenship Education in Japan”, INTER Group and IP of the Research Project FFI2009-08762; Estrategias de integración y prevención de racismo en las escuelas II”, Centro de Ciencias Humanas y Sociales (スペイン科学研究高等会議主催セミナー)、2010年2月17日、スペイン科学研究高等会議 CSIC 研究所。

[その他]

○授業実践(計4回)

①村越純子、授業主題: La Grulla de Origami como el símbolo de paz, 2012年2月16日、ルーデス学校(マドリード自治州コンサータダ系私立学校)のリンクングクラス。

②村越純子、授業主題: La Grulla de Origami como el símbolo de paz(平和の象徴としての鶴の折り紙)、2011年3月3日、ルーデス学校のリンクングクラス。

③村越純子、授業主題: On Origami and the crane as a peace symbol, 2010年3月2日、ルーデス学校のリンクングクラス。

④村越純子、授業主題: “La Grulla de Origami en los intercambios internacionales-la educación para la paz en Japón-”(国際交流としての鶴の折り紙—日本の平和教育の一事例)、2010年2月25日、エストレマドゥーラ大学教育学部。

○ホームページにおける研究活動報告

①スペイン科学研究高等会議公式サイト内

1) 2010年2月17日にスペイン科学研究高等会議 CSIC 研究所で実施したセミナーにおける村越純子の報告および Caridad Hernández Sánchez 教授(マドリード・コンプルテンセ大学教育学部)による報告の概要。

<<http://www.cchs.csic.es/es/content/seminarios-del-grupo-inter>>

2) 村越純子のスペイン科学研究高等会議の訪問研究員としての活動の概要。

<<http://www.proyectos.cchs.csic.es/integracion/es/content/la-profesora-junko-murakoshi-visita-el-cchs>>

3) 2010年2月22日にスペイン科学研究高等会議 CSIC 研究所で実施したセミナーにおける Margarita del Olmo 教授、María Miranda Velasco 准教授(エストレマドゥーラ大学)、そして

村越純子によるセミナーの活動報告。

<<http://www.proyectos.cchs.csic.es/integracion/en/actividades/seminarios?page=1>>

4) 同上、公開ポスター。

<<http://www.cchs.csic.es/es/content/seminarios-del-grupo-inter-0>>

5) 同上、報告の概要。

<<http://www.proyectos.cchs.csic.es/integracion/es/content/3er-seminario-del-grupo-inter>>

6) 村越純子と田代美江子教授の2011年のスペイン科学研究高等会議訪問の概要。

<<http://www.proyectos.cchs.csic.es/integracion/es/noticias>>

7) 2011年3月8日のスペイン科学研究高等会議 CSIC 研究所における田代美江子教授(埼玉大学)による報告の概要。

<<http://www.proyectos.cchs.csic.es/integracion/es/content/prof-mieko-tashiro-visits-japan>>

② エストレマドゥーラ大学公式サイト内

1) 2010年2月26日に実施されたエストレマドゥーラ大学主催国際セミナーとそこでの村越純子の報告の概要と写真。

<<http://www.unex.es/unex/servicios/comunicacion/archivo/2010/032010/01032010/art1>>

2) 2011年2月24日に実施されたエストレマドゥーラ大学主催国際セミナーとそこでの村越純子の報告の概要と写真。

<<http://www.unex.es/organizacion/servicios/comunicacion/archivo/2011/febrero-de-2011/24-de-febrero-de-2011/analisis-de-la-materia-educacion-para-la-ciudadania-en-espana-y-japon>>

③ エストレマドゥーラ自治州公式サイト内

1) 2011年2月24日のエストレマドゥーラ大学主催国際セミナーの活動報告。

<http://www.extremaduradehoy.com/modulos/mod_periodico/pub/mostrar_noticia.php?id=135708>

2) 同上、国際セミナーの公開プログラム。

<http://www.extremaduradehoy.com/modulos/mod_periodico/pub/mostrar_noticia-id-135532.htm>

④ スペイン健康教育学会公式サイト内

1) 2010年3月4日のサンカルロス総合病院にて行われたスペイン健康教育学会主催セミナーにおける村越純子の報告の概要と写真。

<<http://www.fundadeps.org/EpsNoticia.asp?codnoticia=37&anyoSel=undefined&mesSel=undefined&PagActual=2>>

2) 2010年2月26日に実施されたエストレマドゥーラ大学主催国際セミナーと村越純子の報告の概要を健康教育教究として掲載。

<<http://www.fundadeps.org/EpsNoticia.asp?codnoticia=34¬icia=La%20Universidad%20de%20Extremadura%20acogi%F3%20el%20Seminario%20Internacional%20sobre%20Educaci%F3n%20para%20la%20Salud&PagActual=26>>

3) 2011年3月4日の村越純子、田代美江子のマドリード・コンプルテンセ大学附属サンカルロス総合病院訪問の内容と写真。

<<http://www.adeps.org/EpsNoticia.asp?codnoticia=116¬icia=Crece%20el%20intercambio%20entre%20ADEPS%20y%20el%20Ministerio%20de%20Educaci%F3n%20de%20Jap%F3n&PagActual=14&anyoSel=0&mesSel=0>>

4) 2012年2月23日にマドリード・コンプルテンセ大学附属サンカルロス総合病院で行われたスペイン健康教育学会主催セミナーにおける村越純子の報告の概要。

<<http://www.adeps.org/EpsNoticia.asp?codnoticia=189>>

⑤ マドリード自治州公式サイト内

1) 2011年3月4日の村越純子、田代美江子のマドリード・コンプルテンセ大学附属サンカルロス総合病院訪問の内容と写真(同病院発行、“CLÍNICO EXPRESIÓN”, Vol.51, 2011, April, PDFのp.22)。

<<http://www.madrid.org/cs/Satellite?blobcol=urldata&blobheader=application%2Fpdf&blobheadername1=Content-disposition&blobheadername2=cadena&blobheadervalue2=language%3Des%26site%3DHospitalClinicoSanCarlos&blobkey=id&blobtable=MungoBlobs&blobwhere=1272011191278&ssbinary=true>>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村越 純子 (MURAKOSHI JUNKO)
埼玉大学・教育学部・非常勤講師
研究者番号：80456003

(2) 研究分担者

森川 輝紀 (MORIKAWA TERUMICHI)
福山市立大学・教育学部・教授
研究者番号：20008741
田代 美江子 (TASHIRO MIEKO)
埼玉大学・教育学部・教授
研究者番号：40297049

(3) 連携研究者 なし